

武雄市におけるICT利活用教育の取組

～教育の質の向上と魅力あるまちづくりに
向けた市長と教育委員会との連携～



人口：49,187人

小学校数：11校（分校3校）

児童数：2,835名

中学校数：5校

生徒数：1,226名

（平成30年5月1日現在）



武雄市教育委員会

1 武雄市が進める教育改革と人材育成の視点



武雄市教育委員会

市長と教育委員会が、互いの思いを共有し、連携して
策定する教育大綱「組む」で示す武雄市教育の基本理念

～未来を担うすべてのこどもを主人公に～

指針① 「0歳児からの郷土愛」

指針② 「徹底的家庭応援」

指針③ 「21世紀型スキル」

新たな社会に
求められる人材

子供の成長
(次世代を「生き抜く力」の育成)

家庭、学校、地域
現在の姿

市長部局と教育委員会、学校現場が
一体となった教育改革の実現!!

大人が果たすべき役割は、社会の動きと
子供の将来を見据えた教育の実現

2 教育の質の向上を支える3つの視点

社会に根差した教育
「学力」の向上
「人間力」の向上

教育内容

(教育方針、指導計画
の策定と運用)



教員の指導力

(自己研鑽、
OJTが基本)

教育環境の整備

(確かな計画に基づく
総がかりでの取組)

質の向上
量の確保
支援体制の確立



リーダー研修



市長学校訪問

家庭との連携
地域との連携
外部機関との連携

3 ICTの特徴を活かした授業計画の策定と実践

学校教育の不易と流行

～これまでの教育の良さは維持しつつ、社会構造の変化を見据えた教育の実現～

場 面	学習活動	ICT利活用
導 入	振り返り 理解度の確認	大型提示装置 情報端末
展 開	学習の焦点化 問への回答 思考の共有	大型提示装置 情報端末
まとめ	授業の振り返り、定着 知識の定着、家庭学習につなげる工夫 ※武雄式反転授業(スマイル学習)等	大型提示装置



(取組例) 主体的・協働的で深い学びの実現に向けたICTの活用(協働学習の取組)

教員が教育情報システム等を介して発信した内容に対応し、児童生徒が情報端末に記入した回答を電子黒板や他の情報端末に提示するなど、様々な回答(考え方)に触れることで、理解を深める。

(取組例) 遠隔授業、不登校対策等の学習支援ツールとしてのICTの活用(弱者対策)

学習支援ツールやeラーニング教材等を活用し、自らの状況に応じた学習で、理解を深める。

4 日常的に育成する教員のICT指導力

～新たな教育の実現には、教員の意識改革と指導力向上の取組が不可欠～

移行・導入期

Step1) ICT活用場面のイメージ

Step2) ICT 環境のチェック

Step3) 指導目標（学習目標）の設定

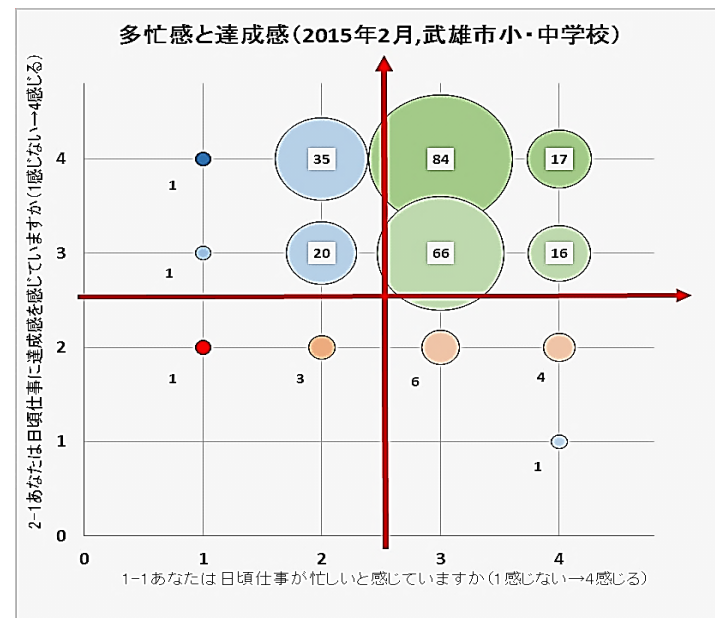
実践・充実期

Step4) 教育実践と質の向上

- ・ どの場面で、どのようにICT機器・教材を利活用するか、結果はどうか。（目的は機器を使うことではない。）
- ・ 学習者の視点に立った教育内容の再構築、不断の見直し。教育効果はスパイラル的に向上。

<参考(教員の意識変化)>

多くの教員が、
「多忙感は感じつつも、仕事への達成感が高い。」
と回答。



5 教育改革を支えるICT環境の整備



武雄市教育委員会

平成21年度(2009年)～ 武雄市での電子黒板の整備開始

(平成27年度で全普通教室への整備を完了)

平成22年度(2010年12月) 市立小学校1校でiPad40台を導入(実証研究)

(2011年 2月) 対象を2校に拡大。小4～6年生の全員に一人一台のiPadを配備し、実証研究を継続。

総務省地域雇用創造ICT絆プロジェクト(教育情報化事業)への参加等

平成25年度(2013年4月)

「武雄市ICT教育推進協議会」の設置
～武雄市での本格的なタブレットPC導入に向けて検討～

平成26年度(2014年4月)

武雄市立の全小学校で、全児童対象に一人一台の情報端末(Android機、7インチ)を整備

平成27年度(2015年4月)

対象を市立全中学校・全生徒に拡大。
情報端末(Android機、10インチ)を整備。



平成28年度(2017年)

情報端末機種更新(小5・6年生 Windowsタブレット)

平成29年度(2018年)

情報端末機種更新(小4、中全 Windowsタブレット)

平成30年度(2019年)

電子黒板の更新、ネットワーク環境の再整備

6 主なICT機器の整備状況(平成30年度段階)

学校現場の意向を踏まえた機器整備と維持、更新

〔電子黒板〕 全普通教室に各1台(特別教室に拡大)

〔情報端末〕 全児童生徒に1人1台(機種更新)

〔通信環境〕 校内LAN、Wifi環境を整備(機能アップ)

〔ICT支援員〕 全校に各1名を配置(派遣型業務委託)

〔デジタル教材〕

- ・ デジタル教科書(指導者用、学習者用)
- ・ スマイル動画(武雄市独自教材)
- ・ プログラミング学習用教材
- ・ オンライン個別学習用デジタル教材
- ・ eラーニング用教材

他

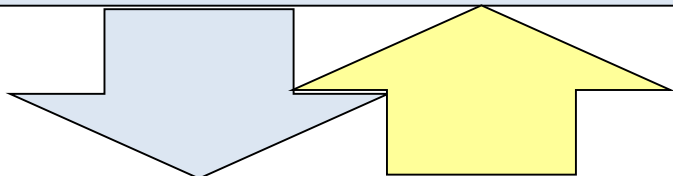


7 新たな教育の実現と成果・課題の共有

新学習指導要領の本格実施に向けて、小学校から中学校までの9年間を見通したプログラミング教育の在り方について実証。成果と課題は、全国に発信。

【プログラミング教育実施の目的】

- ・「筋道を立てて考える力(論理的思考力)」
- ・「構成等を考える力」
- ・「空間認識や距離感覚等の立体認識力」の育成。



小・中、9年間を見通して継続的・段階的に実施

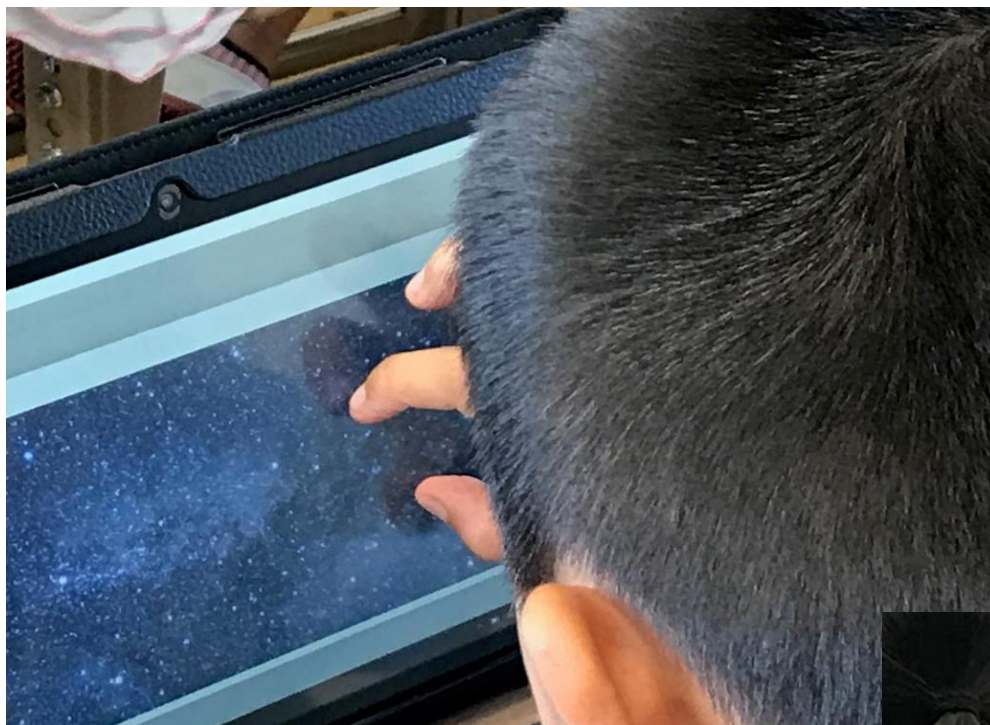
- ・ 社会の変化を踏まえた課題認識
- ・ ICT機器を扱い、楽しみながら授業に参加
- ・ ものづくりの楽しさや達成感の共有
- ・ Society5.0にも通じるキャリア意識の醸成



7 主体的、協働的で深い学びを実現するICTの活用



武雄市教育委員会



タブレット端末の豊富な学習支援機能を活用し、深い学びにつなげる。

(活用事例)

インターネット上で収集した星座の写真から、夏の夜空の特徴についての考察を深める。

* ネット上で収集した星座の写真もピッチアップで拡大すれば素晴らしい教材。

(活用事例)

グループで役割分担し、各自が収集した資料を活用して海外の友人にビデオレターを送る活動を通して、4観点を意識した英語学習につなげる。

* 事前に考えた文章に適した写真や動画を撮影したりネット上で収集し、音声を添えて、送信。



8 外部評価に基づく事業の推進と情報発信

(1) 確かな評価制度を活用した外部評価の活用

「学校情報化認定制度」(日本教育工学協会主催、文部科学省後援)を活用した事業推進計画の検証

- * 平成28年度までに、市内全校が優良校認定を達成
- * 平成29年度に、学校情報化先進地域に認定



(2) 大学、企業と連携した外部評価の実施

確かな調査分析に基づく効果検証と継続した事業改善によるPDCAサイクルの確立

(3) 実証結果の公表と全国に向けた情報発信

把握できた課題意識に対応した事業改善、成果と課題は全国に発信

- * 全国からの視察訪問への対応
- * 市独自の授業公開、成果報告会の実施
- * 各地の事業報告会、教育情報誌での成果発表



以上です。ご清聴、ありがとうございました。